

理学療法・作業療法学科 2 年

授業科目名	臨床心理学
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	臨床心理学
担当講師	高田 豊司 先生
実務経験	☒ 有 ☐ 無 《 関連資格 臨床心理士 》
授業の目的	心理アセスメント、心理面接技法など臨床心理学の基礎的知識と技能を学ぶことで、良好な対人コミュニケーション技術を習得し、臨床心理士や精神科医等、他職種との連携を図れるようになる。
授業の概要	1 回 臨床心理学とは（オリエンテーション） 2 回 心理アセスメントⅠ（アセスメントの種類と知的・発達のアセスメント） 3 回 心理アセスメントⅡ（質問紙法） 4 回 心理アセスメントⅢ（投映法） 5 回 心理療法Ⅰ-精神分析的な心理療法と来談者中心療法- 6 回 心理療法Ⅱ-行動療法と認知行動療法- 7 回 心理療法Ⅲ-その他の心理療法- 8 回 ストレス・マネジメント 9 回 怒りのマネジメント 10 回 ソーシャルスキル・トレーニング 11 回 発達障害の心理療法 12 回 精神障害の心理療法 13 回 相談面接の技法Ⅰ（相談環境の設定とマイクロカウンセリングの技法） 14 回 相談面接の技法Ⅱ（紙上応答訓練・ロールプレイ） 15 回 定期テスト *オンデマンドでの講義になることがあります。
テキスト 参考書	授業時に適宜資料を配布する。
評価の方法	定期テスト 60 点（資料、講義ノート持ち込み可） 出席 15 点、レポート 25 点
授業の形式 受講上の注意	講義による知的理解だけではなく、架空事例などを提示したり、具体的なワークを行ったりすることで体験的に理解を深められるように進める。そのため、積極的な参加を求める。

理学療法・作業療法学科2年

授業科目名	精神医学Ⅱ
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	後期 1単位 30時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	精神医学Ⅱ						
担当講師	塚原 健司						
実務経験	☒ 有 ☐ 無 関連資格：精神保健福祉士・公認心理士						
授業の目的	・OT・PTとして業務を進めていく上で必要な精神医学の理解を深める。						
授業の概要	1 薬理学 2 気分障害 I 3 気分障害 II 4 パーソナリティ障害 I 5 パーソナリティ障害 II 6 摂食障害 7 神経症性障害 I 8 神経症性障害 II 9 発達障害 I 10 発達障害 II 11 不登校・知的障害 12 精神障害と生活システム 13 自殺予防 14 期末テスト対策 15 期末テスト ・学習の進度や状況によって変更することもあります。 ・適時 DVD や事例などの資料も利用して分かり易い講義になるように努力します。						
テキスト 参考書	臨床につながる精神医学 渡辺雅幸 医歯薬出版 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 上野武治 医学書院						
評価の方法	<table> <tr> <td>授業態度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末テスト</td> <td>50%</td> </tr> </table>	授業態度	20%	レポート	30%	期末テスト	50%
授業態度	20%						
レポート	30%						
期末テスト	50%						
授業の形式 受講上の注意	・基本的には講義形式ですがグループワークもあります。積極的な授業への参加を期待します。						

理学療法・作業療法学科 2 年

授業科目名	老年医学
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	老年医学
担当講師	藤村 忠史
実務経験	☒ 有 ☐ 無 《関連資格：理学療法士》
授業の目的	人間の誰しにも起こる老化の理解を高める。また今後のリハビリテーション分野における対象者の中心となる高齢者の特徴を理解する。さらに症候学を再学習し、若年層と比較してどのようにアプローチをすればよいのか考えることができる知識を身につける。
授業の概要	① 加齢と老化：老化と老人病の考え方 ② 加齢と老化：加齢に伴う変化 生理機能 ③ 加齢と老化：加齢に伴う変化 運動機能 精神心理面 ④ 高齢者へのアプローチ：高齢者の定義 人口動態 高齢者との接し方 ⑤ 高齢者へのアプローチ：高齢者の機能評価 退院支援 ⑥ 高齢者に特徴的な症候と疾患：老年症候群 循環器疾患 ⑦ 高齢者に特徴的な症候と疾患：呼吸器疾患 消化器疾患 ⑧ 高齢者に特徴的な症候と疾患：骨・運動器疾患 神経疾患 ⑨ 高齢者に特徴的な症候と疾患：精神疾患 内分泌疾患 ⑩ 高齢者に特徴的な症候と疾患：血液疾患・免疫疾患 腎・泌尿器疾患 ⑪ 高齢者に特徴的な症候と疾患：皮膚・口腔疾患 感染症 ⑫ 高齢者に特徴的な症候と疾患：耳鼻咽喉疾患 眼疾患 ⑬ 高齢者を取りまく環境：老年学からのアプローチ 高齢者の医療・看護・介護・福祉・保険 ⑭ 高齢者を取りまく環境：高齢者のリハビリテーション ⑮ 喀痰吸引（外部講師による）
テキスト 参考書	標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 老年学 第3版 医学書院
評価の方法	筆記試験（100 点満点）で成績を評価する。
授業の形式 受講上の注意	座学形式

理学療法学科・作業療法学科 2 年

授業科目名	地域共生支援論
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	後期、1 単位、30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	地域共生支援論	
担当講師	渡部 静	
実務経験	☒ 有 ☐ 無 《関連資格：作業療法士》	
授業の目的	①救命処置に関する知識と技術を身につけることができる ②地域包括ケアシステムおよび地域共生社会の理解ができる	
授業の概要 到達目標	第 1-3 回 外部講師 WEB 講習	概要：緊急時に命を救うための知識と技術を身につける 目標： ・普通救命講習修了 ・命の危機に直面した際に、迅速かつ的確に対応できる力を養う ・AED の使用を含めた成人に対する心肺蘇生法、止血法・異物除去法などについて、実技を通じて修得する ・緊急時に冷静に判断し、周囲と協力して行動できるようになる
	第 4-13 回 渡部 外部講師	概要：地域共生社会に向けたリハビリテーション専門職の役割を学ぶ 目標： ・現代社会の動向と、それに対応するための地域共生社会、地域包括ケアシステム、地域リハビリテーションの概念を理解できる。 ・地域共生社会における理学療法士・作業療法士の役割と多職種連携の重要性を理解できる。
	第 14 回 外部講師	概要：地域での認知症者の支援について学ぶ 目標：・認知症サポーターになる ・チームオレンジについて概要を説明できる
	第 15 回	筆記試験
テキスト	なし（適宜資料を配布する）	
評価の方法	・普通救命講習修了、認知症サポーター講座修了：各 5 点 ・提出物（20 点）、発表（20 点）、筆記試験（50 点） 6 割以上で合格	
授業の形式 受講上の注意	座学、実技、グループワーク ※授業概要については、順番が前後する可能性がある。	

理学療法学科・作業療法学科 2 年

授業科目名	保健医療福祉制度論
区分	専門基礎分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	保健医療福祉制度論
担当講師	岩崎 寛広
実務経験	☒ 有 ☐ 無 《 関連資格 社会福祉士 》
授業の目的	現在施行されている制度について理解する
授業の概要	1. オリエンテーション 2. 社会保障制度の歴史、病院の種類① 3. 病院の種類②、医療保険制度① 4. 医療保険制度② 5. 生活保護制度について 6. 年金制度について① 7. 年金制度について②、介護保険制度について① 8. 介護保険制度について② 9. 退院支援について、グループワーク 10. 障害者制度について 11. 障害者サービスについて 12. 家庭・子どもの制度について 13. 虐待防止法について、自然災害時の制度 14. 補足 2025 年問題など
テキスト 参考書	資料配布
評価の方法	定期試験
授業の形式 受講上の注意	講義

作業療法学科 2 年

授業科目名	作業学演習Ⅲ
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	作業学演習Ⅲ	
担当講師	赤堀 将孝	
実務経験	☒ 有 ☐ 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①作業基盤や作業焦点の分析を実際に行うことができる。 ②実例に応じた作業分析ができる。 ③体験・観察したことを分析・解釈を行い、文章で記録することができる。	
授業の概要	第 1-5 回	作業分析に基づく支援の検討 <到達目標> ①作業活動を評価し説明できる。 ②作業活動を実行するための支援計画が立案できる。
	第 6-13 回	作業活動のための支援ができる <到達目標> ①35 分間の支援計画を立てることができる。 ②観察の中で作業遂行技能を分析し、記録することができる。
	第 14-15 回	成果発表 ①前後評価に基づいて考察を述べることができる ②作業活動を通した支援の経過を説明できる
テキスト 参考書	配布プリント、資料	
評価の方法	課題レポートおよび発表等を用いて、合計が 60 点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループ演習、オンライン講義など	

はくほう会医療専門学校赤穂校

作業療法学科 2 年

授業科目名	身体障害治療学Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 2 単位 60 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	身体障害治療学Ⅱ
担当講師	亀山 一義 渡部 静
実務経験	亀山 一義 ☒ 有 ☐ 無 《 関連資格：認定作業療法士・保健学博士 》 渡部 静 ☒ 有 ☐ 無 《 関連資格：認定作業療法士・教育修士（専門職）》
授業の目的	①：疾患から生じる症状や障害を理解することができる。 ②：症状や障害によって引き起こされる作業障害を想定することができる。 ③：作業障害に対し、作業療法プログラムを立案，実施できる。
授業の概要	1. 脳血管障害に対する作業療法（10 コマ） 《到達目標》 ①：CT、MRI などの画像診断を理解することができる。 ②：脳血管障害の病態を理解することができる。 ③：回復段階に応じた作業療法評価とプログラム立案ができる。 2. 脊髄損傷に対する作業療法（5 コマ） 《到達目標》 ①：MRI などの画像診断を理解することができる。 ②：脊髄損傷レベルに応じた残存機能を理解することができる。 ③：脊髄損傷レベルに応じた ADL を理解することができる。 3. 神経筋疾患に対する作業療法（3 コマ） 多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症など 《到達目標》 ①：各疾患の病態、症状を理解することができる。 ②：各病期に応じた作業療法を設定することができる。 ③：各病期に応じた作業療法プログラムを立案することができる。 4. 神経変性疾患に対する作業療法（4 コマ） パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など 《到達目標》 ①：各疾患の病態、症状を理解することができる。 ②：各病期に応じた作業療法を設定することができる。 ③：各病期に応じた作業療法プログラムを立案することができる。 5. 内部疾患に対する作業療法（7 コマ） 循環器疾患、呼吸器疾患、糖尿病など 《到達目標》 ①：各疾患の病態、症状を理解することができる。 ②：各疾患に対する作業療法プログラムが立案することができる。 ③：病態および症状に対する日常生活指導方法が選択できる。

テキスト 参考書	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 脳卒中 基礎知識から最新リハビリテーションまで
評価の方法	筆記試験 6割以上で合格
授業の形式 受講上の注意	座学

はくほう会医療専門学校赤穂校

作業療法学 2 年

授業科目名	身体障害治療学Ⅱ 演習
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	身体障害治療学Ⅱ 演習	
担当講師	赤堀 将孝	
実務経験	☒ 有 ☐ 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	骨関節疾患の概要と疾患の知識、評価技術を座学と演習を通して身につける。	
授業の到達目標	1. 各疾患の概要について理解し必要性等を口頭にて説明ができる 2. 各疾患について必要な評価項目を列挙し、実践できる 3. 各疾患の時期に応じた治療プログラムを考案できる	
授業の概要	第 1-5 回	上肢の末梢神経損傷、腱損傷について学ぶ。 <到達目標> ①末梢神経・腱の回復について理解できる。 ②末梢神経・腱損傷の作業療法を考えることができる。
	第 6・7 回	関節リウマチ及びその類縁疾患について学ぶ。 <到達目標> ①関節リウマチの病態について理解できる。 ②関節リウマチの作業療法を考えることができる。
	第 8-14 回	骨折、加齢性関節疾患について学ぶ。 <到達目標> ①骨関節疾患の病態について理解できる。 ②骨関節疾患の作業療法を考えることができる。
	第 15 回	定期試験 1-14 回までの範囲の知識と作業療法士としての思考を確認する。
テキスト	標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学	
参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学	
評価の方法	筆記試験：100 点中 60 点を合格とする	
授業の形式 受講上の注意	座学および演習 (オンライン講義を含む)	

はくほう会医療専門学校赤穂校

作業療法学科 2 年

授業科目名	精神障害治療学Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	精神障害治療学Ⅱ
担当講師	大谷 将之
実務経験	☒ 有 ☐ 無 《 関連資格 作業療法士 》
授業の目的	①精神科作業療法において活用できる理論や実践モデル、治療手技を学び、理解を深める。 ②精神科における就労支援について、モデルや支援方法を学ぶ。
授業の概要	・ 作業遂行の観察の視点を学ぶ ・ 精神科を取り巻く就労支援（IPS モデル等）について ・ 精神障害を抱える方への地域での支援（ACT 等） ・ 精神障害を取り巻く支援モデル（リカバリー・ストレングス）について ・ 元気回復行動プラン（WRAP）の概要と実践方法 ・ 認知行動療法の概要と実践方法 ・ SST の概要と実践方法 ・ 様々な治療実践方法（NEAR、SCIT）の紹介 ・ 理論や実践モデルの必要性について ・ カナダ作業遂行モデルの概要と実践モデルについて ・ 人間作業モデルの概要と考え方について ・ 作業療法介入プロセスモデル（OT I PM）について ・ イタリアの精神保健福祉について
テキスト 参考書	精神機能作業療法学（WEB 教科書） 作業で語る事例報告 資料配布
評価の方法	定期試験，レポート
授業の形式 受講上の注意	座学 復習をしっかりと行ってください。 分からないことは質問してください。

作業療法学科 2 年

授業科目名	精神障害治療学Ⅱ演習
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期、1 単位、30 時間
成績評価方法	筆記試験

授業科目名	精神障害治療学Ⅱ演習
担当講師	西木悠衣、渡辺なつみ
実務経験	☒ 有 ☐ 無 《 関連資格 作業療法士 》
授業の目的	小児期から若年期、高齢期に関わる精神疾患の疾患別障害特性と課題、その作業療法過程と介入方法について学び、全体の復習を踏まえさらに理解を深める。
授業の概要	1. オリエンテーション（講義概要） 2. 各疾患の概論、評価、作業療法について ・神経症 ・発達障害 ・依存症 ・摂食障害 ・認知症 3. まとめ
テキスト 参考書	精神機能作業療法学（WEB 教科書） 資料配布
評価の方法	筆記試験
授業の形式 受講上の注意	座学およびグループワーク

作業療法学科 2 年

授業科目名	高次神経障害治療学演習
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 各 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	高次神経障害治療学演習	
担当講師	赤堀 将孝, 渡部 静	
実務経験	☒ 有 ☐ 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①高次脳機能障害の基礎知識、病態や発生機序、治療原理について説明できる。 ②高次脳機能当事者の、生活課題を抽出し作業療法を立案できる。	
授業の概要	第 1・2 回	失語症各論 ＜到達目標＞ ①失語症の種類が説明できる。 ②失語症者への対応を説明できる。
	第 3・4 回	高次脳機能障害者の家族会の計画・広報 ＜到達目標＞ ①高次脳機能障害の人と家族の生活課題を調べることができる ②当日広報や運営の準備ができる
	第 5 回 ： 9/26（土）	高次脳機能障害者の家族会の運営・参加 ＜到達目標＞ ①当事者との会話から生活課題を抽出できる
	第 6 回	振り返り ＜到達目標＞ ①高次脳機能障害の人とその家族の生活課題を説明できる
	第 7-13 回	失行症・失認症、半側空間無視 ＜到達目標＞ ①失行症・失認症の種類が説明できる。 ②失行症者・半側空間無視に対する支援方法を立案できる。
	第 14・15 回	高次脳機能障害者の家族会の計画・広報 ＜到達目標＞ ①高次脳機能障害の人と家族の生活課題を調べることができる ②当日広報や運営の準備ができる
	第 16 回 ： 12/6（土）	高次脳機能障害者の家族会の運営・参加 ＜到達目標＞ ①支援者として観察から生活課題を提案できる
	第 17 回	まとめ、振り返り、引き継ぎ資料の作成 ＜到達目標＞ ①高次脳機能障害の人とその家族の生活課題を説明できる ②来年度に向けた引き継ぎ資料が作成できる
テキスト	能登真一 編：「高次脳機能作業療法学」第 2 版. 医学書院.	
評価の方法	・振り返りレポート各 15 点 ・小テスト①失語・失行、②失認 各 35 点 合計 60 点以上で合格	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループワーク、オンライン講義など 注) 授業概要については順番が前後する可能性がある。	

作業療法学科 2 年

授業科目名	老年期障害治療学
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	老年期障害治療学	
担当講師	國近 敏伸	
実務経験	☒ 有 ☐ 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	加齢による変化、高齢者の心理的特性、高齢者の生活支援場所などを理解した上で、高齢期障害の特徴、高齢期障害に対する作業療法について理解する。	
授業の到達目標	1. 高齢者に生じやすい身体機能障害、認知機能障害および生活機能障害について理解し、作業療法評価から治療計画立案までの基本的知識と技術を修得する 2. 高齢者の人生歴や価値観を尊重した作業療法実践について理解を深める 3. モデルケースによる症例の統合と解釈ができる	
授業の概要	第 1-6 回	認知症の作業療法 ・ 作業療法士の役割、認知症分類・症状・特徴、評価や支援方法 <到達目標> ①認知症の病態、評価、特徴や支援方法を答えられる ②認知症高齢者の作業療法評価項目を列挙し活用できる
	第 7-13 回	高齢期の作業療法の実際（症例検討） ・ 評価について、流れ、分析と治療プログラム、統合と解釈 <到達目標> ①高齢者の尊厳と人生歴を踏まえた支援の重要性が答えられる ②症例情報から目標設定および支援計画を作成できる
	第 14、15 回	作業療法の実践事例の検討 モデルケースによる学習 <到達目標> ①症例情報から目標設定および支援計画を作成できる ②統合と解釈ができる
テキスト 参考書	標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 配布資料	
評価の方法	以下の課題の合計で算出する。60 点以上を合格。 1. 認知症に関する小テスト 50 点 （第 6 回目） 2. 症例レポート 30 点 3. 症例についての課題 20 点 （第 14・15 回）	
授業の形式 受講上の注意	講義と演習を行う（オンラインを含む）	

作業療法学科 2 年

授業科目名	発達障害治療学Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	発達障害治療学Ⅱ	
担当講師	宍戸 聖弥	
実務経験	☒ 有 ☐ 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①発達障害領域のリハビリテーションに対する知識を深め、作業療法士の役割や専門性を理解し、支援するための基礎を学ぶこと。 ②発達障害領域の作業療法評価および解釈、治療計画の作成、支援の方法を学ぶこと。	
授業の概要	第 1 回	発達障害領域のリハビリテーションについて <到達目標> ①発達障害領域のリハビリテーションや地域での関わりを知る。 ②様々な発達障害領域で働くリハビリテーション職の現状を知る。
	第 2-5 回	応用行動分析に基づくリハビリテーション <到達目標> ①応用行動分析による子ども支援の概要を理解できる。 ②実際に応用行動分析を体験し、基礎を理解することができる。
	第 6-9 回	ASD、ADHD、LD 等についてのリハビリテーションや対応について <到達目標> ①ASD、ADHD や LD 等の概要を理解できる。 ②作業療法評価や計画・実践を理解することができる。
	第 10-14 回	作業療法場面における玩具や治療具の提案と作成 <到達目標> ①症例の問題点を考察できる。 ②症例に対する玩具や治療具の提案・作成できる
	第 15 回	定期テスト
テキスト 参考書	医学書院：小児科学、発達過程作業療法学（電子書籍）	
評価の方法	レポート課題、定期テストの得点合計が 60 点以上を合格とする。	
授業の形式 受講上の注意	座学、グループワーク、オンライン講義など 玩具作成費用として 1,000～1,500 円程度必要となる予定。 上記講義内容について、時間変更や順番変更あり。	

作業療法学科 2 年

授業科目名	日常生活活動演習Ⅱ
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	日常生活活動演習Ⅱ	
担当講師	赤堀 将孝	
実務経験	☒ 有 ☐ 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	作業療法士として必要な MTDLP の知識とその用い方を習得する。 作業療法士の思考過程である動作分析スキルを実習レベル（指導者の指導の元でできるレベル）にする。	
授業の到達目標	1. 作業療法士として身につけておくべき MTDLP について理解し、説明できる 2. 模擬症例に対して MTDLP を用いて検討をすることができる 3. 動作観察が指導の下実施できる	
授業の概要	第 1 ～ 4 回	生活行為向上マネジメントの概要と解説 各シートの使い方の説明
	第 5 ～ 12 回	模擬症例 1 ～ 2 事例を MTDLP を用いて目標設定から、治療計画の立案までを実施する。 個人ワーク、グループワーク（ワークと発表）を混ぜながら行う
	第 13 ～ 14 回	基本動作の動作分析 脳卒中、切断等の起居動作を観察し、文章化できるようになる
	第 15 回	筆記試験 症例情報に基づき MTDLP のシートを埋めていく。
	※第 1 ～ 12 回までは、進捗状況に応じて若干前後することがある。	
テキスト 参考書	資料は随時配布する。	
評価の方法	・ 定期試験：MTDLP シートの活用—100 点（60 点合格）	
授業の形式 受講上の注意	・ 講義と演習を行う（オンラインを含む）	

作業療法学科 2 年

授業科目名	作業療法演習
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	作業療法演習
担当講師	作業療法学科教員
実務経験	あり 関連資格：作業療法士
授業の目的	作業療法プロセスを再確認し、理解を深める 臨床実習に必要な最低限の知識の会得を目指す 評価実習・臨床実習で必要とされる評価の理解と技術の向上を目指す 対象者に必要な検査の抽出・実施を可能にする
授業の到達目標	1. 模擬患者に対して、教員の助言なしに評価・測定ができる 2. 評価実習に必要な知識をもち、その必要性を述べるができる
授業の概要	・実習ガイドラインに沿って、作業療法における評価の流れ、情報収集や検査項目の抽出及び目的や意義、遭遇しやすい疾患の理解度を深めるため座学にて講義を実施する。 ・1・2 年次に学習した評価における検査・測定の基本的な技術を復習する。 ・対象者への検査・測定を臨床での状況を想定して、より高いレベルで実施できるように技術の習熟度を高める。 ・解剖学、運動学、生理学及び、整形疾患、中枢疾患、神経難病、高次脳機能障害に関する知識の会得のための講義及び筆記テストを行う。 ・模擬患者情報から必要な評価を抽出し、実施する。
テキスト 参考書	作業療法評価学 その他適時指定する
評価の方法	・筆記テスト 25 点 ・OSCE (客観的臨床能力試験) 観察項目 35 点、身体機能項目 40 点 模擬患者に対し、患者情報から必要な評価を実施する。 (リスク管理やコミュニケーション技法なども含む) ※100 点満点中 60 点を合格とする。
授業の形式 受講上の注意	座学・実技

作業療法学科 2年

授業科目名	リハビリテーション機器・職業関連活動
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 1 単位 30 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	リハビリテーション機器・職業関連活動	
担当講師	渡部 静	
実務経験	☒ 有 ☐ 無 《 関連資格 作業療法士 》	
授業の目的	①住環境整備と支援機器に関わる基本的な作業療法について理解する。 ・住環境調整アセスメントについて説明できる。 ・主たる福祉用具について体験し、適用や選定ができる。 ・福祉用具種別に応じた支援の実際について説明できる。 ②就労支援領域における基本的な作業療法について理解する。 ・障害者の就労制度と支援について説明できる。 ・障害特性に合わせた作業療法の役割について理解できる。	
授業の概要	第1-7回	住環境整備と作業療法 <到達目標> ①自宅の部屋の見取り図を描くことができる。 ②利用者に応じた住環境調整のアセスメントについて説明できる。 ③福祉用具の安全性について説明できる。
	第8-9回	福祉機器・支援機器と作業療法 <到達目標> ①福祉用具・支援機器を体験し、適用や選定ができる。 ②福祉用具種別に応じた支援の実際について説明できる。 ※兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター見学
	第10-15回	就労支援領域における作業療法 <到達目標> ①障害者の就労制度と支援について説明できる。 ②障害特性に合わせた作業療法の役割について説明できる。 ※就労継続支援 A 型、就労継続支援 B 型事業所実習 (実習施設:げんぶ、はくほう)、当事者とのグループワーク
テキスト 参考書	標準作業療法学 地域作業療法学 第4版 医学書院 配布資料など	
評価の方法	発表 (50 点)、提出物 (50 点) 各6割以上で合格	
授業の形式 受講上の注意	グループワーク・発表・実習・座学 ※授業概要については、順番が前後する可能性がある。	

はくほう会医療専門学校赤穂校

作業療法学科 2 年

授業科目名	評価実習
区分	専門分野
学期、単位、時間	後期 3 単位 135 時間
成績評価方法	下欄成績評価方法による

授業科目名	評価実習
担当講師	評価実習指導者
授業の目的	一般目標 評価実習先の業務を理解し、職業人として望ましい態度と行動をとることが出来る。 対象者に対する評価のプロセスを身につける 行動目標 ・実習施設における作業療法及び作業療法士の役割機能を学ぶ ・実習を系統的に習得し、その技術や考察の方法を習得する ・障害を持つ人に対する作業療法士としての姿勢と、組織の一員としての姿勢を学ぶ。
授業の概要	・身体障害系医療機関、介護老人保健施設、精神障害系医療機関での実習を行う。 ①対象者に関する情報の収集が行える（観察、面接、テストなど） ②収集した情報を分析・統合して全体像を把握する ③解決すべき問題点の抽出 ④作業療法計画の設定（長期目標・短期目標の設定） ⑤短期目標達成の為にプログラムを計画 実習後 ・課題の提出。 ・実習で学んだことを症例検討にて共有し、学びを深める。
テキスト 参考書	適宜必要文献
評価の方法	実習期間中の成績評価は各実習施設の実習指導者が実施し学校に報告する。 実習後の内容を含める。 実習施設を 4 割、学校での提出物および発表を 6 割として配点する。
授業の形式 受講上の注意	既定の施設にて実習指導者の指示に従う。